

# 総務文教委員会

平成28年度

## 行政視察報告

平成28年10月18～20日

視察先・視察項目

①10/18 長野県塩尻市

・図書館のあり方について

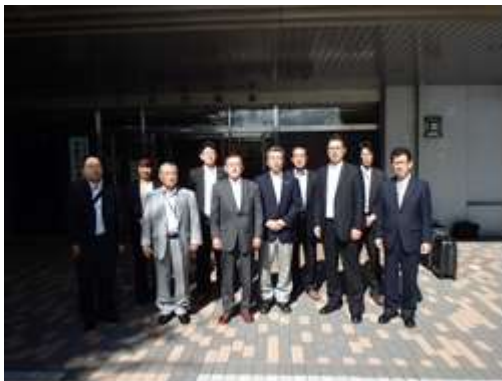
②10/19 長野県茅野市

・公共施設等総合計画の策定について

③10/20 静岡県島田市

・公共施設マネジメントの推進について

・廃校を活用した都市住民との交流事業について



茅野市(議会棟前)



島田市(山村都市交流センターささま)

# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会委員長 田 中 利 徳

【 日 程 】 平成28年10月18日～20日

## 【 視察先・視察項目 】

- 1 長野県塩尻市 「図書館のあり方について」
- 2 長野県茅野市 「公共施設等総合計画の策定について」
- 3 静岡県島田市 「公共施設マネジメントの推進について」  
「廃校を活用した都市住民との交流事業について」

## 【 視察報告 】

この度の視察は、総務文教委員会（委員長：田中利徳、副委員長：土井正人、森脇悦朗、藤田厚、島田修二、多田伸治、鍛冶恵巳子）に加え、政策企画課（佐々木課長、入江係長）議会事務局（田平係長）の計10名により、2泊3日の行程で実施した。

### 1. 長野県塩尻市

#### 「図書館のあり方について」

午前7時に江津市役所を出発し、広島から新幹線、名古屋で中央本線に乗り継ぎ13時53分に塩尻駅に到着した。その後、徒歩で直接市民交流センター「えんぱーく」を訪問し視察を行った。

塩尻市は、松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置し、人口は66,477人である。

北アルプスを遠方に望み雄大な田園風景の広がる素晴らしい環境の地域であり、また、古くから中山道を軸に太平洋側と日本海側の交通の結節点となっている。市の基幹産業は製造業で、平成25年の工業統計調査では県内1位となっている。都市近郊型の農業が営まれ、レタスやブドウの栽培が盛んである。古くよりワイン製造が営まれ、近年の国際コンクールにおいても入賞しており高い評価を受けている。現在では山梨県甲府地域が地球温暖化の影響を受けて気温の上昇があり優秀なワインが製造できなくなり、甲府の企業が工場を塩尻市に移転する傾向が強くなっている。

塩尻市民交流センター「えんぱーく」では、市民交流センター長・塩尻市立図書館長である中野実佐男氏と市民交流センター・塩尻市立図書館係長の武田文秀氏に対応していただいた。

市民交流センター「えんぱーく」は、基本コンセプト『知恵の交流を通じた人づくりの場』と定め、「情報を扱う基本応力」と「豊かな心」を市民自らが開花させ、知恵を生かすことに積極的な人材が集い、交流することを通じて新たな価値が創出される場を目指している。

このセンター整備に当たっては、平成10年の中心市街地活性化基本計画策定に始まり、中心市街地活性化まちづくり協議会、議会特別委員会、飛び込み市民会議、図

書館基本計画策定懇話会、市民交流センター創造会議、市民ワークショップ、えんぱーく設立準備会、えんぱーく設立会などにおいて、市民の思いを結集し12年の際月をかけて、平成22年7月29日にオープンしており、オープン後の市民の利用は5年間で300万人を達成している。

「えんぱーく」は、JR塩尻駅から徒歩8分の商店街のはずれに位置し、駐車場については、市営駐車場（750台・商店街の駐車場を含む）と2カ所の平面駐車場に合計約800台を確保。センター利用者は6時間無料であった。

センターの入居者については、市直営部分とテナント部分に分かれており、直営部分の市民交流センターとして、①図書館（1階・2階）、②子育て支援センター（1階図書館と連結）、③交流エリア（3階・ICTルーム、食育ルーム、各種会議室音楽練習室、多目的ホール、④市商工・まちづくり部門、職業相談室（4階）テナント部分として、商工会議所、民間オフィス、ショップ（4階）そして屋上には、ワインを味わうことのできるイベントホール、芝生広場、遠方にアルプスを望む展望広場が設置されていた。

塩尻市立図書館は、昭和46年に開館した。2度の移転を経て平成22年7月29日に市民交流センターの主要施設として現在の図書館がオープンしている。塩尻市の図書館は、本館と8つの分館から構成されている。

市民交流センター全体の延床面積は約12,000㎡、うち図書館は約3,300㎡で、地下に閉架書庫（23万5千冊収容）、1階・2階が開架書架で、約20万冊（一般書16万冊、児童書4万冊）を配架。開架の収容能力は26万冊となっていた。平成27年の貸出冊数は674,942冊、利用者数は134,765人である。

**図書館の運営方針**は、図書館の目指すべき方向として、

- ①役立つ情報を提供する図書館
  - ②意欲と活動を応援する図書館
  - ③進化する図書館
- の3点を掲げている。

**図書館の運営体制**は、通常の業務体制とは別にサービス事業チームを編成し、検討、実践に取り組んでいる。現在、活動中のチームは、多文化サービス、シニア活動支援サービス、市民活動支援、青少年交流、子育て応援、医療健康情報提供、図書館利用に障がいがある方へのサービス、ビジネス支援となっていた。

**塩尻市立図書館の特徴**は、

- ①配架・・・書架の高さを高く設定してある（特に壁面）ことで、より多くの本と利用者が出会えるよう工夫している。
- ②混配・・・本と資格資料を同じ場所に配架する。関連する資料を分類区分にとら

われず配架している。

- ③複本・・・原則複本所蔵はしない。ただし予約件数が多い場合は追加購入する。予約が15件を超えると2冊目、35件で3冊目、55件で4冊目を購入する。
- ④企画展示・・・展示コーナーで、企画展示を実施している。
- ⑤テーマボックス・・・計画的にテーマを決めて行うほか旬な話題やその時々のお出来ごとについても行っている。常時20テーマ程度実施している。

「信州しおじり本の寺子屋」について、出版界は書籍の販売額が大幅に減少するなど危機的な状況に立たされている。このような状況が続けば、図書館の基本となる出版文化に影響が出かねない。「『本』の可能性を考えたい」をテーマに始まった「信州しおじり本の寺小屋」は、活字離れと言われる昨今の状況に対して、著者、出版社、書店と図書館が連携することにより本の魅力を発信する取り組みである。

## 【感想】

塩尻市民交流センター「えんぱーく」を視察し、どうしても江津市の複合型公共施設「パレットごうつ」との比較になってしまうが、「えんぱーく」では広いスペースにゆったりと書架の並ぶ中を大勢の人々が読書活動に親しんでいる。3階のフリースペースでは、高校生や大学生がスナック菓子を食べながら、勉学に勤しんでいる。音楽練習室では社会人のグループが音楽に興じている。そして屋上の展望広場から望む日本アルプスの絶景を見たとき、ワクワクするこの施設に5年間で300万人の市民が集ったことに納得した。いまさら言うてはならぬことであるが、わが市の複合型公共施設「パレットごうつ」を考えると、言い方は悪いが、この「えんぱーく」から大切な部分を抜き取った抜け殻が「パレットごうつ」のように思えてきた。

現在「パレットごうつ」では、中高校生が交流スペース等を利用して学習することが好評価を受けているようであるが、本来の目的とは異なった形になっているのではなかろうか。この車社会において、予定した駐車スペースを確保しないまま見切り発車の形で、「てごねっと石見」に丸投げするのではなく、多額の予算を費やして建設した「パレットごうつ」について、駐車場対応など今一度原点に立ち回り利活用について全市を上げて考え、誕生したばかりの「パレットごうつ」を市民が楽しく集える施設に育てていかなければならないと強く感じた。

市立図書館についてはこれまで市民の強い要望がありながら、抜本的な改善が図られていない江津市の事情を思うと、あまりにもかけ離れた存在の図書館を目にし悔しく残念に思った。江津市立図書館も職員の皆様の工夫により積極的に運営されておりますが、塩尻市立図書館の運営委方針には学ぶべきことが多くあると、感じた。江津市民が本を通しての学びの機会が少しでも多くなることを切に願わずには

いられない。



## 2. 長野県茅野市

### 「公共施設等総合計画の策定について」

茅野市は、長野県中部の諏訪盆地の中央に位置し八ヶ岳や蓼科高原への玄関口。

「尖石遺跡」をはじめ市内各所に遺跡が点在、国宝2体が発掘され、縄文時代中期には日本で最も繁栄した地域とされている。

産業振興においては、商業、工業、観光、農業、林業、建設の6分野を横断する産業振興ビジョンを策定し、特に観光振興の取り組みに注力している。日本三大奇祭の一つである諏訪大社御柱祭は、茅野市を含む諏訪地方全体で行われ、八ヶ岳連峰を望む自然豊かな人口55,801人の市である。

茅野市議会総務環境委員会委員長の両角昌英氏の歓迎の挨拶の後、茅野市企画総務部企画戦略課長の小平雅文氏から「公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針について」説明いただき、質疑応答を行った。

### 茅野市の公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針

#### 1. 計画期間

平成29年度から平成48年度までの20年間とする。ただし、10年後の見直し及びそれ以外でも必要に応じて適宜見直しを行うこととする。

#### 2. 基本的な考え方

##### (1) 安全・安心の確保

これまで各施設の所管部署において、公共施設等の安全に利活用するべく点検・管理を実施してきた。そうした現状や課題を整理した上で、早期発見、早期対応を主眼とした更なる安全と安心を確保するための基本方針を定め、全庁的に取り組む。

##### (2) 長寿命化の推進

中長期的な維持管理・修繕・更新等に係るトータルコストを削減し、財政負担を平準化していくために、公共施設の長寿命化を図るとともに、

計画的・効率的な改修により公共施設等の質を確保していくことが必要である。

### (3) 施設総量の縮減

公共施設等（建物）については、将来人口や財政規模などに応じた施設総量の縮減が必要である。しかし、今後の公共施設の在り方等の検討に当たっては、物質的な量（ハード）だけでなく、その公共施設等における行政サービスの在り方も含めて検討していく。また、平成 27 年度に実施した市民アンケートの結果では、縮小はやむを得ないと回答が多く、施設総量の縮減に対して一定の理解が得られていると解釈している。そうした中で、施設の新規整備は原則行わないことや、既存施設を更新（立替）する場合は複合施設とすること、また、統廃合することを検討し施設総量の縮減を図る。

## 3. 推進体制及び個別施設計画の策定等

### (1) 推進体制

本計画の対象は、市が保有するすべての公共施設に及ぶため、施設管理等を総体的に把握する部署を設置し、専門的な見地からの情報の共有や調整等により、総合的かつ計画的な管理を行う。

### (2) 個別施設計画の策定等

現在策定済みの個別作成計画は、インフラ長寿命化計画など、国から示される技術基準等に準拠したものであるか見直す。その他の施設については、施設類型ごとの特性に応じた個別施設計画を策定し、計画的な施設管理と進行管理を行う。

※なお、現在検討中の施設類型型マネジメント方針等については、平成 29 年 1 月頃パブリックコメントを実施する予定である。

## 【感想】

この公共施設等総合計画の策定については、茅野市も江津市と同じく国の方針を受けてスタートしているので策定の進捗状況は江津市と同程度であった。

しかしながら既に「公共施設総合管理室」を設置している点、そして、平成 27 年 12 月に「茅野市の今後の公共施設等の在り方に関する市民アンケート」を実施その調査結果を基に、作業を進めている点等は、江津市も取り入れる点は取り入れ作業を進めていく必要があると感じた。



### 3. 静岡県島田市

「公共施設マネジメントの推進について」

「廃校を活用した都市住民との交流事業について」

島田市は、静岡県のほぼ中央、大井川の中流域に位置している。市の中央部には川幅約1kmの大井川が流れ、市域を二分している。市の南部には、富士山静岡空港があり、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号線等の結節点となっている。

平成17年5月に旧島田氏と旧金谷町が合併、平成20年4月に旧川根町との合併により、市の面積315.70K㎡（東西約22km南北約31km）、人口100,127人の市である。

島田市議会事務局長の鈴木正敏氏の歓迎の挨拶の後、嶋田市行政経営部財政課長の鈴木明宏氏が予め江津市が提出していた質問事項に回答する形で説明を受け、終了後質疑応答を行った。

#### 「公共施設マネジメントの推進について」 質問及び回答

##### 1・議会とのかかわりについて

(1) 執行部内の体制づくりや計画樹立等について、議会はどのようにかかわったか。

回答・・・所管部署については規則で定めていることから、議会の議決は受けていない。ただし、組織再編全般に関しては全員協議会の場で報告の上、意見を聞いた。

##### 2・取り組み体制について

(1) 平成27年度から統括する部署を設けているが、具体的な体制は。

回答・・・平施26年度までは企画部企画課行政経営係で所管していたが、平成27年4月の組織再編に伴い行政経営部財政課に資産経営担当を設け、全庁的な取り組みを統括する体制を整えた。

(2) 施設評価については、専門的な知見も必要だが統括部所において技師等の配置をしているか。

回答・・・財政課資産経営担当に建築技師及び電気技師を1名ずつ配置している。この技師2名は、市長部局が所管する施設の営繕移管する事務を兼務している。

(3) 資産経営会議を設置しているが、役割と経緯については。

回答・・・公共施設マネジメントや資産の有効活用に関する基本的な方針について協議し、全庁的な情報共有を円滑に図ることを目的として、平成27年11月に設置した。構成員は部長級職員で構成している。

(4) 「行政経営会議」と「資産経営会議」の役割について。

回答・・・行政経営会議では、行政改革や事務の効率化に関する事項など、主に行政全般の合理的運営に関する事項を所掌する。資産経営会議では、公共施設及び資産の在り方に焦点を当て、適正管理と有効活用を通し

て持続可能な行政運営を実現することを目指し、必要な各種施策を所掌する。

### 3・資産管理について

(1) 行政財産を用途廃止した場合は、直ちに普通財産へ移管しているか。移管する場合は基準とあるか。

回答・・・行政財産を用途廃止する際、今後他課において行政的な利用計画がないか原課で各課に確認を行い、計画がないことが明らかである場合に普通財産への移管をする。移管の際の基準はないが、引き受け課（財政課）で所管することが技術、地域その他の関係から不相当と認められる場合には原課で所管することができるよう市財務規則で規定されている。

(2) 普通財産は、どのような管理方針で管理されているか。引き受け部署はどこか。

回答・・・まとまった面積の土地は市の財源確保のため基本的には売却処分を行っている。公共施設マネジメントを推進していく上では、必ずしも単純売却が行くとは言えないため、今後は基準作りを検討していく必要があると考える。普通財産は財政課の所管である。

### 4・データ管理について

(1) データの一元管理方法はどのようになっているか。システム導入はしているか。

回答・・・保有状況に関するデータについては、「公有財産台帳」は既にシステムにより管理しているが、「固定資産台帳」は今後システムの構築を進める段階にある。財務・品質・供給に関するデータについては、システムの導入を検討中である。

(2) 施設データについて、固定資産台帳との連携は。

回答・・・「公有財産台帳」と「固定資産台帳」の一元化が理想と考えるが、システムの統合には多額の費用がかかると考えられることから、いずれかをマスターデータとして位置付けながら相互に連携を図ることで事務の効率化が図れるかどうか検討中である。

### 5・総合管理計画策定について

(1) 計画の策定は自前作成か、委託作成か

回答・・・業務委託によって作成したが、計画本文に記載する事項についてはほとんど市で作成し、データ集計に関する部分のみ委託業務の成果品をもちいた。

(2) 公共施設白書の公表時期と作成頻度は。

回答・・・公共施設白書は、平成 25 年度末時点のデータを整理し、平成 27 年 2 月に公表した。コストや利用状況に関するデータは毎年集計しているが、白書としてまとめるのは 2～3 年に 1 回くらいの頻度とし事務負



担の軽減を図っている。

- (3) 計画の策定や見直しに当たって、外部有識者や市民代表などを含めた諮問機関を設置しているか。

回答・・・これまでに策定した計画は、諮問機関による検討はしていない。今後施設の配置適正化に関する方針を検討するにあたっては、有識者や市民からの意見を取り入れる場を設けることを予定しているが、諮問機関とするかどうかは未定である。

- (4) 削減目標にかかる実績のとりまとめや報告等はどのようにしているか。

回答・・・固定資産台帳の更新作業によって施設総量の増減を把握していきたいと考えている。議会（市民）への報告の在り方については、今後検討する。

- (5) 公共施設の更新問題は全国的な共通課題ですが、公共施設の適正配置に当たって、島田市特有の課題があるか。

回答・・・島田市では、小規模な小学校が多く、教育の規模の観点から、これらを再編するかどうか課題になっている。

## 6・公共施設問題について

- (1) 公共施設問題について、市民への周知や理解活動はどのような取り組みをしているか。

回答・・・市民への周知や理解活動は、広報紙による周知を2回実施したが、今後公共施設の適正化に関する具体的な方向性が明確化された段階で、有識者を招いてのシンポジウムを開催する。また、平成27年11月には、14歳以上の市民3,000人を対象に「公共施設に関する市民アンケート」を実施し、1,388人(46.2%)から回答を得た。公共施設に関する課題についてはある程度関心があるものの、市の取り組みに対する認知度は低く、特に若年層で関心が低くなっている点が課題であると認識している。

## 7・計画での総量削減について

- (1) 計画での総量削減が不可欠となっているが、解体や大規模改修、機能集約における施設改修など一定の財源が必要となるが、将来に備えての基金積立などしているか。

回答・・・公共施設マネジメントの取り組みを推進するための基金の積み立てはしていないが、公共施設整備基金（設置：市の公共施設の整備に必要な経費の財源に充てるため）があることから、目標金額は明確に示すことはできないが基金の積み増しを検討している。公共施設が一斉に更新時期を迎えることに伴い、財源の不足も課題であるが、更新時期を調整することで事業量の平準化を図ると同時に、公民連携手法などを通して費用の平準化を図ると言った取り組みが必要であると考えている。

## 8・志太広域公共施設マネジメント協議会について

(1) 志太広域公共施設マネジメント協議会を設置され調査研究をされているが、具体的取り組みは。

回答・・・各市の公共施設白書を共通のルールに基づいて収集したデータにより整理し、各市間で比較可能な状態にした。また、インフラの包括管理や民間事業者による公的不動産の利活用に関する調査などを共同で実施し、広域的な視点から実現可能性について検討を進めることとしている。

## 9・民間事業者との連携について

(1) これまでの取り組みの中で、民間事業者と連携して有効な施設活用や維持管理費の縮減が行われた事例があるか。

回答・・・大規模プロジェクトにおける公民連携はない。公共施設マネジメントの取り組みとして実施しているものではありませんが、図書館の「雑誌スポンサー制度」では、民間事業者が購入した雑誌を図書館に提供することで図書館運営費の縮減が図られている。また、住民窓口を設置している「番号案内表示機」は、設置に協力（出資）した民間事業者の情報を放映することで、市の費用負担が発生することなくサービスの提供が実現している。このような小さな取り組みも、公民連携による施設運営費の縮減の事例と捉えている。今後、最近多くの自治体で実施されている「サウンディング調査」を導入し、市場性の把握を通して適性かつ合理的な事業実施を目指したいと考えている。

## 【感想】

島田市では、平成27年11月に市の進める「公共施設マネジメント」の一環として、公共施設（公共建物に限定）に対する市民の意識の構造を把握することを通して、今後の取り組みの方向性を検討するにあたっての参考とするため市民を対象に「島田市の公共施設に関する市民アンケート調査」を実施するなど検討を重ね、平成28年3月に「島田市公共施設等総合管理計画」の策定を終え、本市よりほぼ1年早く推進しており、今後推進する本市にとって大変参考になる事例について学ぶことができた。また、この度は本市の担当部署である政策企画課の2名の職員が同行したためより具体的な質問ができ、我々委員の理解も一層深まった。

公共施設等は市民生活や社会経済活動とのかかわりが深く、施設の再編や受益者負担の見直しなどを検討するにあたっては、市民をはじめ多くの関係者との合意形成が重要になる。避けて通ることのできない公共施設に関する課題に対し、行政、議会、地域（市民）が一体となって、次世代に過度な負担を強いることなく、ニーズに見合った行政サービスを将来に渡り安定的に供給続ける

ために、喫緊の課題として取り組んでいかなければならないと強く感じた。

## 「廃校を活用した都市住民との交流事業について」

島田市山村都市交流センター「ささま」

島田市役所からマイクロバスで約1時間のところにある島田市山村都市交流センター「ささま」を訪問した。

この施設は、平成20年に合併した山間部に位置する旧川根町の笹間地区にあった。笹間地区は、大井川の支流である笹間川に沿った10集落からなる。約180世帯、人口約470人、高齢化率が50%を越す限界集落である。平成19年4月笹間小学校、笹間中学校が同時に廃校となった。その後、廃校校舎を約9,900万円をかけて改修工事を行い、宿泊体験施設とまちづくりの拠点として、平成21年4月に開館した。

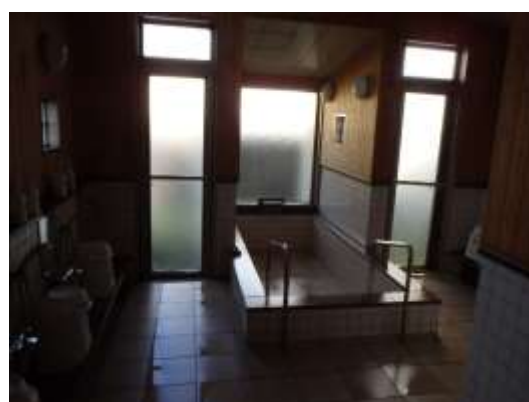
施設は、定員80名で地域資源を活かした体験交流事業やスポーツクラブの合宿などにより、年間約3,000名の利用者がある。運営については旧川根町助役であったセンター長が献身的に行われていた。

### 【感想】

施設運営をセンター長と2名の職員が中心となり住民の有償ボランティアで行っておられるが、地域の活性化につながっているとは言え、大変なご苦労があると感じた。

本市において、各地域コミュニティで取り組むことも考えられるが人材や地理的条件等課題も多いと感じた。

本市には、県立少年の家があり、近年は、貸切バス運賃の高騰等あり県東部の学校の利用が激減している。中でも冬期は特に利用者が少ない。スキー実習等との組合せによるプログラムを考えるなど、現存する施設を有効活用することを推進しなければならないと感じた。



## 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

平成28年10月27日

総務文教委員会副委員長 土井 正人

平成28年10月18日

塩尻市市民交流センター

知恵の交流を通じた人づくりの場を基本コンセプトとして、役立つ情報を提供する。意欲と活動を応援する。センター自身が進化する。をモットーに市全体のブランド構築に貢献し、地域の価値を高めていくとして開設された施設そのもののデザインの斬新性に驚かされた。複合施設でありながら、設計にあたって市民の声が反映されて非常にユニークである。その中の核としての図書館機能が大きな役割を果たしている。図書館が複合施設内に組み込まない施設としては当初から考えられていない。図書館のあり方にはいろいろな意見もあったが、納得のいく方向で開設となっている。いろいろ説明を聞き、施設内を視察する中で、どうしてもパレットと比較してしまい我々の責任を痛感した。5年経って困ったことがないかと問いましたが、大きな問題はなく多少の雨漏りや空調の不便がある程度とのこと。非常にうまく運営されており、案内の方が自信と誇りを持って説明される姿は羨ましいかぎりであった。



平成28年10月19日

茅野市

公共施設等総合管理計画の策定について

茅野市における状況の説明を受ける。市として説明できる体制をつくるためのプロジェクトチーム、総合管理室(政策と都市計画を中心として)5人制(兼務専任1人)の構築、市民へのアンケート調査(無作為で2,000人、回収率42.4%)の実施。

一般的に言う総論賛成、各論反対の状況でこれを基に市民へのパブリックコメントを実施とのこと。

内容については今後のほうが重大で本市の状況と同様な進捗状況と思われた。

本市においての専任体制づくりとアンケート実施の内容が重要と思われる。今後についてお互いに情報を交換しながら進める事が必要と思われた。

平成28年10月20日

島田市

公共施設マネジメントの推進について

こちらかの質問に答える形で90分近い説明があった。島田市もほぼ本市と同じような進捗状況で、公共施設の40%近くは教育関連のもので小中学校の統廃合が大きな課題とのこと。本市はほぼ(西部小学校を除く)統合は終了しているが、残された施設をどう活用するかが同じ課題となりそう。そうした中で島田市と川根町との合併前に統廃合している山間地の小学校跡地の活用として『山村都市交流センターささま』の現地視察を行った。島田市中心地より車で約1時間の山間地の廃校を約1億円かけて改修し、宿泊をとまなう施設として開設され、平成21年度より運営され、平成27年度利用は、宿泊3,141人、利用者17,229人となっており、地域の中に溶け込んでいる施設となっている。

やはりこのような施設を運営するには「人」の存在が大きいことを改めて痛感した。本市においても何とか参考にできないか…、そのためにも「人」づくりが重要である。



# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

平成28年11月4日

総務文教委員会委員 鍛治 恵巳子

日程 平成28年10月18～20日（3日間）

場所 長野県塩尻市/長野県茅野市/静岡県島田市

項目 図書館のあり方/公共施設等総合計画の策定/公共施設マネジメント、廃校を活用した都市住民との交流事業について

視察① 図書館のあり方について

市民交流センター「えんぱーく」

《感想》

こちらでは、図書館のあり方を視察ということでしたが、図書館機能以外にも子育て支援、青少年育成、シニア活動、ビジネス支援、市民活動などを応援する複合施設でした。子育て世代、働く世代、シニア、あらゆる世代の人が交流する場所で、中も明るく、一日いても飽きない作りでした。

当センターは、視察見学なども多数ということもあって、施設への来館者は月平均5万人を越え、夏は一番多くなっています。

施設自体活動支援をしているので多いとは思いますが、まず魅力なのが6時間駐車料金無料ということだと思います。近隣デパートにも接続されており、どちらにも相乗効果があるかと思われます。

また、建物など、鉄柱というものが使われており、画鋏やテープでポスターなどを貼るのではなく、強力な磁石でくっつけるという形で、壁を傷つけないような構造になっていました。私は初めてみました。

施設内料金も比較的安い料金で貸切ることができますし、ポスターなども一日いくらなどの設定で貼ることを許されています。あと、その日のホテルでみたユニクロのCMで、「えんぱーく」が使われていて、確か、皆が集うところ、みんなが着る服、ユニクロみたいなものでした。近くにいてもいったことのないという人も、行ってみたいくなるようなCMでした。

本市には、「パレットごうつ」ができましたが、まだ一度も行って見たことが、ないという人もいますかと思えます。地元ではケーブルテレビなどがあります。なにかもっと広報をつかって、行きたくなる施設にしなければいけないのではないかと思います。人が集まるということは、魅力があるということです。コンセプトの中に、知恵の交流を通じた人づくりの場とありますが、人が集まり、一つの世界、まちを作っているようでした。



## 視察② 公共施設と等総合計画の策定について

茅野市役所

### 《感想》

本市と同じくらいのスピードなのか、といった印象でした。27年度は市民アンケートを実施されていますが、パブリックコメントをもらいながら、機能をのこしつつ、リノベーションといったスタイルですすめているようでした。

20年計画という大きな計画。10年間だけだと目先だけになり、長すぎると先が見えづらいのということをおられました。本日常々変わっていますからそれを予測するのは本当に大変だと思います。改築よりも工事費が安価で廃棄物が少ないリノベーション優先、本市もできればその方向でいきたいところです。

## 視察③ 公共施設マネジメント、廃校を活用した都市住民との交流事業について

島田市役所/山村都市交流センターささま

### 《感想》

マネジメントということで、よく本市でも市民の理解・・・というのを聞きますが、島田市でも公共施設に関する市民アンケートでも、公共施設等の現状課題に対して関心を持っている市民の割合は6割弱らしい。

本市は何パーセントでしょうか。議会に関心があっても、それに対してかける時間や無いという人が殆どではないでしょうか。合意形成が円滑に図られるように見えるかし、とありますが、中途半端な情報だけが流れてしまうと市民は不安になりますし、課題に対する意識の啓発をはかるといっても、やはり議員は市民の代表としてしっかりと議論を重ねていくべきだと思います。

建物を残すにあたって、まちづくりとの連携はまだできていないとのことでした。

市役所内横の連携というのは、やはりどこも難しいのですが、役所内横の連携してこそ、町の課題、人の課題、お金、円滑な合意形成というのはすべての人の理解を得るのは難しいですけどね。島田市長が自ら出している市政羅針盤、これは市民が市長の想いをくみ取ることができるとても素敵な事だとも思いました。今、何が問題なのか、なにを求めているのか、市長自らも発信することも必要かと思います。

山村都市交流センターですが、学校の跡地を人が活かし、人が動かしている素敵な場所だとも思いました。人材というか、まとめる方がおられたからこそまでになったと思いますが、広いグラウンド、教室、体育館、キッチンに改装した理科室かな？こんなに安い料金で泊まれる、食べることは大変ですが、自炊が殆どと聞きましたが、それも色々な面で一番安心だとも思いました。都心との交通の便さえうまくいけば、合宿に私でも使いたいとも思いました。本市も廃校になった学校、あたたかい地域性、同じようにできることがあると思います。とても参考になりました。

# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

2016年11月4日

総務文教委員会委員 多田伸治

10月18～20日の日程で3つの自治体を視察しました。

## ☆長野県塩尻市

### えんぱーく

塩尻市は長野県のほぼ中央、人口6万6000人の都市です。「図書館のあり方」をテーマに、市立図書館も入居する市民交流センター『えんぱーく』を視察しました。

『えんぱーく』は2010年に塩尻市の中心市街地に建設された、地上5階地下1階延面積1万1900㎡の複合施設で、図書館のほかに多目的ホール・会議室・子育て支援センターなどの市民センターとしての機能を持ち、商工会議所・ハローワーク・市商工課なども入居しています。また、フリースペースを広く取っており、平日の日中でも、多くの市民が利用している様子が見られました。

塩尻市では2003年から「中心市街地の活性化」と「市立図書館のあり方」の議論を重ね、『えんぱーく』を建設しました。その議論は市民参加のもと行われており、協議会やワークショップは確認できるだけで186回を数え、「飛び込み市民会議」には1500人が参加しています。

フリースペースの存在や市民参加の賜物か、開館6年で『えんぱーく』への来館者は300万人を超え、図書館も年平均で5万人前後が利用しています。なお、隣接する市営駐車場は『えんぱーく』利用であれば、6時間まで無料です。

建設費は土地の購入費を含めて51億6000万円となっています。その点について、視察後に塩尻市議会共産党の小澤市議に話を聴くと、「市財政には一時的な歪みが出たが、そのことによって福祉や教育など、他が削られることはなかった」と述べ、「フリースペースでは世代を超えた交流もあり、活性化の一助となっている」と語っています。

## ☆長野県茅野市

### 公共施設等総合計画

茅野市は長野県の中部やや東よりに位置する5万5000人の都市です。

「公共施設等総合計画の策定」をテーマに、茅野市の取り組みについて説明を受けました。

現在、全国の地方自治体では国からの要請を受け、それぞれが抱える公共施設の整理（廃止・統合）に取り組んでおり、茅野市では「公共施設等総合計画」を策定しています。高度成長期に建設した公共施設が老朽化しており、箱物行政でつくりすぎた無駄な施設の整理は必要です。しかし、国が求めているのは公共施設の総面積の削減であり、各自治体や地域の実情などお構いなしの切り捨てにつながりかねません。そうならないためにも、計画を策定・実施する際に、市民の理解や合意を得られる進め方が求められます。



茅野市では計画の策定段階で、大学教授や市民団体・商工会議所の代表からなる市民委員会を設置していますが、メンバーは 15 人となっており、必ずしも市民全体の合意が得られた状況とは言えません。そのため、「市民の声の反映させ方」「市民の合意形成」について、茅野市での取り組みを質問したところ、「廃止・統合への理解を得るため、地域での説明会には市長が出席する予定」とし、廃止の場合でも『『決定した』ではなく、柔軟な対応で廃止を中止するための条件なども提示する』との説明がありました。

## ☆静岡県島田市

### 公共施設マネジメント

#### 廃校を利用した都市住民との交流事業

島田市は静岡県中部の内陸の都市で、人口は 10 万人。島田市では「公共施設マネジメントの推進」と「廃校を活用した都市住民との交流事業」を視察しました。

「公共施設マネジメント」は茅野市と同様、公共施設の整理についての取り組みです。ここでも、市民の合意形成について質問すると、「市民の合意形成は今後の課題であり、市民の利便性を損なわない計画にしたい」としつつ、現状の取り組みとして、市内に 60 余りある自治会に対し、市長が週ごとに訪問し、公共施設のあり方を含めた市政について市民との対話を実施していることが説明されました。

島田市北部の川根町笹間地区では、廃校になった小学校を「山村都市交流センターささま」とし、その運営を地域住民らで構成する「企業組合くれば」が受け持っています。

センターでは都市からの宿泊客などを受け入れており、そのことで 20 人前後のパート雇用が生まれ、都市との交流や若干の収入を得ていました。

# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会委員 森 脇 悦 朗

## 1.視察先 長野県塩尻市

【日 時】 平成28年10月18日(火) 14:30~17:00

### 【視察内容】

図書館のあり方について

### 【視察目的】

塩尻市市民交流センター「えんぱーく」内にある図書館及び市民交流施設を視察し、今後整備を予定している江津市立図書館のあり方について調査するため。



### 【概要】

- (1) 塩尻市立図書館は、昭和46年に開館。2度の移転を経て平成22年7月に市民交流センターの主要施設としてオープンし、本館と8つの分館で構成されている。
- (2) 市民センター全体の延べ床面積は約12,000㎡、うち図書館は約3,300㎡で地下に閉架書庫(23万5千冊収容)、1階・2階が開架書架で約20万冊を配架。開架収容能力は26万冊。
- (3) 図書館のほかには、塩尻市子育てセンター、交流エリア、商工会議所、民間オフィス等がある。
- (4) 図書館運営の基本方針として、市民交流センターは「知恵の交流を通じた人づくりの場」とし、図書館の目指すべき方向として、①役立つ情報を提供する図書館、②意欲と活動を応援する図書館、③進化する図書館の3点を掲げている。
- (5) 特徴として、①書架の高さを高く設定しより多くの本と利用者が出会える工夫、②本と視聴覚資料を同じ場所に配架、③原則複本を所蔵しない、④展示コーナーで規格展示の実施、⑤計画的にテーマボックスがある。
- (6) 「信州しおじり本の寺子屋」事業は、活字離れと言われる昨今の状況に対して、著者、出版社、書店と図書館が連携することにより本の魅力を発信する取組みである。

### 【所感】

今回お邪魔した「えんぱーく」は、駅から徒歩8分の位置にあり、遠いかなと思ったので確認したところ、元々の駅が現在地に移動したとのことで、まさに商業の中心地に立地している。また、向かいの商業施設に750台の市営駐車場があり屋根付きの歩道橋でつながっており、さらに利用者は6時間まで無料と利用しやすい施設であると感じた。図書館も利用しやすいことに合わせ、フリースペースが充実しており、高校生や各種団体の利用もしやすい印象を持った。来館者も増えており、作る段階から市民との協議を進められ利用者の目線に立った造りであり、無駄なものがないことも特徴的である。

本市の複合交流施設「パレットごうつ」についても、利用者目線での活用が求められることと、今後の図書館建設に向けては、大いに参考すべきと感じた。



## 2.視察先 長野県茅野市

【日 時】 平成28年10月19日(水) 9:40~11:40

### 【視察内容】

公共施設等総合管理計画の策定について

### 【視察目的】

現在、本市においても策定が進められている公共施設等総合管理計画について、茅野市の状況を視察し、お互いの共通課題や進め方など共有しながら、今後の計画実施を確実にを行うため。

### 【概要】

(1) 全体スケジュールは、①公共施設白書の作成のために情報収集と計画的な管理に関する基本的な考え方を整理(H.26)、②市民アンケートの実施と公表、維持管理・修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込み(H.27)、③施設類型ごとの管理に関する基本方針をまとめ、公共施設等総合管理計画決定(H.28)、④具体的な個別施設計画を策定し、実施する。(H.29)

(2) 公共施設(建物)の状況は、①昭和40年代から平成初期に建てられたものが多く

占め、建築後 30 年以上経過したものが全体の約 40%以上、②60 年間の更新費用を 1 年あたりに換算すると、年間 24 億 3 千万円になる③過去 10 年間と比べ投資額が年間市民一人当たり 23,142 円の負担増となる。

(3) 人口減少による生産年齢人口の減少に伴い市税収入が減少し、現在の投資的経費の維持も困難と想定され、保有している全ての公共施設等を保有し続けることが困難な状況。

(4) 基本的な考えのうち、①安全・安心の確保、②長寿命化の推進、③施設総量を縮減において特に重点的に施設を複合化によりすることを検討する。

(5) 推進体制として、施設管理等を総体的に把握する専門部署の設置。そして施設類型ごとの個別管理計画を作成し、計画的な施設管理と進行管理を行う。

### 【所感】

総合管理計画策定のスピードは、本市と変わらないが、市民アンケートを早くから実施されており、公共施設について総論は廃止もやむなしだが、各論では残してほしいといった傾向がわかったとのことであった。茅野市は御柱が有名なように、地域間のつながりが強く具体的な話になると話が進まないようで、今後の個別計画の策定も苦勞するといった話も聞け、本市の具体案策定に向けても情報の共有を今後もすべきであると感じた。施設を一元管理する部署の必要性を言われていたので、本市も検討すべきと思う。

## 3.視察先 静岡県島田市

【日 時】 平成 28 年 10 月 20 日（木） 9：30～14：30

### 【視察内容】

公共施設マネジメントの推進について

廃校を利用した都市住民等との交流事業について

### 【視察目的】

現在、本市においても策定が進められている公共施設等総合管理計画について、島田市の状況を視察し、お互いの共通課題や進め方など共有しながら、今後の計画実施を確実に行うことと、実際に公共施設を活用している現地を視察し、本市における未利用施設の活用の可能性の参考とするため。



## 【概要】

### 1. 公共施設マネジメントの推進について

- 島田市公共施設等総合管理計画は公共施設マネジメントの取組の一環として、保有する施設の全体的な状況を踏まえつつ、計画的に管理するための基本方針と施設に関する施策の方向性を示す。
- 取組体制について平成 27 年 4 月の組織再編により、行政経営部財政課に資産経営担当を設け、市の経営資産（ヒト・モノ・カネ・情報）の効率的な運用の一端を担う。
- 資産管理についてまとまった面積の土地は財源確保のため売却処分を行っているが、島田市は民間土地利用が盛んでないことから単純に売却がいいとはいえない。
- データの一元管理について「公有財産台帳」と「固定資産台帳」の一元化は理想であるが、システム統合に多額の費用がかかることから、いずれかをマスターデータとして位置付けながら相互に連携を図ることで事務の効率化が図れるか検討中。
- 公共施設の適正配置について旧島田市の区域では小規模な小学校が多く、これらに再編が課題。
- 市民アンケートについて 3000 人のうち 46.2%の回答があり、公共施設に関する課題にはある程度関心があるが、市の取組の認知度が低く、特に若者層で関心が低くなっているのが課題。

### 2. 廃校を利用した都市住民等との交流事業について

- 笹間地区は 10 集落約 180 世帯、人口約 470 人、高齢化率 50%超す限界集落。
- 平成 19 年 3 月、笹間小学校、中学校が同時廃校し、管理運営組織設立、企業組合を設立し、平成 21 年 4 月に山村都市交流センターささまが開館した。
- 鉄筋コンクリート 2 階建ての校舎を約 1 億円かけて施設改修し、宿泊定員 80 名で、毎年平均 3000 人の宿泊客がある。
- 地域への波及効果として、①イベント開催による農村と都市の交流促進、②雇用の創出、③地域特産品の販売、④インフラの整備促進、⑤地域資源の創出、活かしたまちづくりの推進（社会実験）がある。
- 地域資源を活かした体験交流事業（ピザづくり、ヤマメのつかみ取り、そば打ち体験等）、イベントの開催（ふるさとまつり、国際陶芸フェスティバル等）

## 【所感】

島田市での公共施設管理を進める上で先進的と思ったのは、公共マネジメント部門を財政課に置いたことだと思う。やはり財源がないと進まない事業であり、併せて兼務ではあるが建築、電気の専門技師を配置し営繕に関する事務がスムーズに進む体制作りは参考になると

思う。今後計画を実施するうえで、各地区のコミュニティの醸成について尋ねたところ、市長自ら地域へ足を運び丁寧な説明をしているとのことで、感心した。今後の進め方についても茅野市同様、情報共有すべきと感じた。

廃校の利用については、大きな財源を掛けて改修をしてはいるが、それを回す体制、特に地域住民の協力体制がうまくできていると感じた。多くの人があると道路がよくなってきたという館長の話は、すばらしい波及効果と思った。まさに現在私の住む地域で閉校した小学校校舎の今後の利活用について協議している中で、参考にすべき点が多々あったことを地域コミュニティ組織にきちんと伝え今後の取り組みに活かしていこうと思った。それにしても我々から見れば市役所から移動時間が約1時間もかかるということで、相当不便な地区といった印象だが、アイデア次第で人が集まるといったことと継続的に運営できる仕組みづくりについて先進的であった、すばらしい施設見学ができたと思う。

# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

総務文教委員会委員 島田 修二

◎10月18日(火) 長野県塩尻市

塩尻市は面積290.13km<sup>2</sup> 人口約66,000人

○図書館のあり方について

## 1、市民交流センターえんぱーく

- 1F 図書館・子育て支援センター
- 2F フリーコミュニティ・パソコンコーナー
- 3F 市民サロン・市営駐車場連絡通路
- 4F 展望テラス
- 5F 芝生公園

## 2、基本コンセプトと機能 【知恵の交流を通じた人づくりの場】

- ・塩尻市の事業を実施する拠点となること
- ・アイデンティティ(個性・塩尻らしさ)を先導
- ・中心市街地活性化の拠点となることへの期待
- ・市内外から、多くの利用者が訪れるよう「魅力・シンボル性」を備える

## 3、整備にかかる主な経緯 【平成10～22年度】

- ・中心市街地活性化まちづくり協議会
- ・飛び込み市民会議
- ・図書館基本計画策定懇話会
- ・市民交流センター創造会議
- ・市民ワークショップ
- ・えんぱーくくらぶ設立準備・設立会
- ・平成22年7月29日 オープン

## 4、感想

人口6万6千人の町でありながら、開館5年で累計来場者300万人を達成している。この施設は、図書館単独施設ではなく、塩尻を中心とした周辺地域の市民交流機能をあわせ持っており、土日は、若い人で満員とのことだった。

担当者の説明では、住民との協議に時間をかけ計画を決定した。集客の要因として、若い人が最初に良いと思ったら人を呼んでくるとのこと。また、隣接する民間駐車場「700台」はセンター利用者6時間まで無料で財政的には大変だが利用者増につながっている。やはり、集客・交流・賑わいの創出を考えるならば、実際に使う人が中心となった計画でなければ意味が無くなるのでは、過去に様々な自治体が行ってきた、交流施設等は何が目的か、何がこの施設の核になっているのか、よく見えない施設が多々あったのではと思われる。「魚屋は魚」「クルマやは車」「本屋は本」といったように、その施設のメインとなるものが明確でな

ければだめだと思う。最後に、担当者の方がこの交流センター図書館がなかったらこのような結果にはつながらなかったと断言された。江津市の「パレット江津」ハードは出来上がり、「本来の目的である駅前に賑わいの創出を」ソフトの部分で明確にしていくことが必要であると考えている。

◎10月19日(水) 長野県茅野市

茅野市は面積266.59km<sup>2</sup> 人口約55,700人

○公共施設等総合管理計画の策定について

1、策定スケジュール

- \*第1ステップ(平成26年度) 公共施設白書作成のための情報集約
- \*第2ステップ(平成27年度) 市民意識の把握のためアンケート調査
- \*第3ステップ(平成28年度) 計画決定
- \*第4ステップ(平成29年度～)個別施設計画の策定、実施

2、基本的な方針

- \*計画期間 平成29年度から平成48年度までの20年間
- \*基本的な考え方 ・安全・安心の確保 ・長寿命化の推進 ・施設総量の縮減

3、感想

担当者の説明の中で、計画期間が20年間にした理由は、まちづくりを考えると最低20年は必要との事で、その考えには賛同した。しかし、基本的にはリノベーションを優先との事で結局は将来的には管理費等のコストの大幅な削減は難しいのではと思った。地域性にも問題や課題がある。

◎10月20日(木) 静岡県島田市

島田市は面積315.70km<sup>2</sup> 人口約10万人

○公共施設マネジメントの推進について

1、目的

- \*現状と将来の見通し、課題 「状況把握、費用の見通し、課題の分析」
- \*取り組み方針・推進戦略 「基本方針と対策のポイント整理」
- \*実効性の確保 「柔軟な発想のもと検討、実効性を確保」

2、計画期間 平成28年度から平成67年度までの40年間

3、感想

担当者の説明では、平成26年度は企画課に公共施設マネジメントの担当部署があったのを、平成27年度より財政課に担当部署を置いたとの事で作業がし易くなっただけで、また担当者を2名配置して効率を良くしようとしているが、マンパワー不足ではと思う。しかし、削減目標を21パーセント削減に設定されており、ここは見習うべきものと感じた。やはり、島田市においても、まだまだ地域性等の問題や課題があり簡単に推進できる事業ではないなとも思う。



○廃校を活用した都市住民等との交流事業について

\*山村都市交流センターささま

1、笹間地区の概要

10集落 約180世帯 人口470人 高齢化率50%

2、利用方針

都市と農山村の交流活動の拠点 笹間地区の活性化が図られる施設

3、施設の概要

鉄筋コンクリート2階建て 敷地面積9390㎡ 延べ床面積1109㎡

宿泊定員80名

4、波及効果 農山村と都市の交流が促進 雇用の創出

5、感想

島田市中心部より車で50分ぐらい走ってセンターに着いた。途中の道は桜江の風の国に行く道のようなだった。施設は1億円かけて改修されており、体育会系クラブの高地合宿に向いているのかなとも思った。もうちょっと予算をかけてグラウンドを広くしたならば大学の合宿にもってこいだなとも。周りには何もなくて一つのことに集中するといった観点で考えるならば最適な環境ではとも思う。説明の中で、年寄りも資源と言われていた、確かに。江津市のキャッチフレーズ「小さくともきらりと光る」江津は何がきらりと光っているのだろう。

魅力があるところには、少々交通の便が悪くても人は来るものだな。魅力の創出、魅力の発信、ごうつの今後の課題。

# 平成28年度 総務文教委員会行政視察報告書

平成28年10月28日

総務文教委員会委員 藤田 厚

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程 平成27年10月18日(火)～10月20日(木)

☆視察先 ①長野県塩尻市②長野県茅野市③静岡県島田市

## ★主な目的

塩尻市では、図書館のあり方について、茅野市では、公共施設等総合計画の策定について、島田市では、公共施設マネジメントの推進について及び廃校を活用した都市住民との交流について視察いたしました。

## 1. 塩尻市

### 【内 容】

塩尻市は長野県のほぼ、中央部に位置し人口6万6000人の都市であります。

「図書館のあり方について」市立図書館が入居する市民交流センター『えんぱーく』を視察しました。

『えんぱーく』は2010年に塩尻市の中心市街地に建設され、地上5階地下1階延べ面積1万1900㎡の複合施設で図書館の他に多目的ホール・会議室・子育て支援センター・などの市民センター機能を持ち、商工会議所・ハローワーク・市観光商工課や、民間オフィスなどが入居しており、視察日も多くの市民や学生が利用されていました。

『えんぱーく』は知恵の交流を通じた人づくりの場を、基本コンセプトに、知恵と意欲を持つ人が集い、活発に活動・交流することで新たな価値が創造され、さらに多くの人をひきつける場へと進化する知恵の好循環を生み出すセンターとしています。

また、基本コンセプト実現のためにセンターが目指して取り組んでいることは、1. 役立つ情報を提供する。2. 意欲と活動を応援する。3. センター自身が進化する。をモットーに市全体のブランド構築に貢献し、地域の価値を高めていく施設として活動していくことです。との概要説明があり、続いて

- ・設計にあたっては市民の声が十分に反映されている点及び壁柱を使うなどの斬新性。
- ・複合施設でありながら、その中の核である図書館機能が大きな役割を果たしている。
- ・図書館が入らない複合施設にすることは計画当初から全く考えていなかった。
- ・図書館の在り方については色々な意見もあったが、納得いく方向で開設となっている。

と色々具体的な説明を伺い、施設視察をしました。

5年間で300万人達成出来たのは何故かと問ましたところ、市民とどの様な施設であれば良いのかと議論して取り入れたことが大きかった。また、5年経って困ったことはという問いには、建物的に多少の雨漏りや、空調の不便がある程度で運営に大きな問題はないとのこと。

## ●まとめ

視察日にも多くの中高生がフロアの各所でパソコンや教科書などを広げている様子がみうけられ、うまく運営されていると感じた。また、施設全体で5年間で300万人もの来館者があり、図書館も表彰を受けるなど職員、司書さんは、自信と誇りを持ってアイデアを出し合う羨ましい環境であると感じた。

視察中どうしても江津の複合施設との比較をしてしまうことで我々の責任も強く感じる所であった。今後、江津市の図書館については、しっかりと議論する必要があると感じた。



## 2. 茅野市

### 【内容】

茅野市は長野県の中心部やや東よりに位置し5万5000人の都市であります。公共施設等総合計画策定について現状について視察しました。

現在、全国の地方自治体では国からの要請を受け、それぞれが抱える公共施設の整理(統廃合・有効活用)に取り組んでいます。茅野市では、議員2名、大学教授や市民団体・商工会議所の代表からなる行財政改革審議会を設置して公共施設等管理計画を策定しています。視察では茅野市職員さんから状況の説明を受けました。

市として説明を行う体制をつくるための、プロジェクトチーム総合管理室を立ち上げた。(政策と都市計画の5人体制但し兼務で専任は1人)

市民アンケート調査を行った。(無作為2000人に対し回収率は42,4%)

いわゆる総論賛成各論反対の状況であったが、これを基に市民へのパブリックコメントを実施すること。

## ●まとめ

茅野市は、合併は行ってはいないが歴史上(御柱祭りなどで有名)地区意識が大変強いとこのことで今後の話の進め方が重大であろうと感じた。

進捗状況は本市と同様であると感じたが、茅野市とは合併状況がちがうものの本市は旧桜江町時代に1つの自治体として計画されて建設された施設が多くあり、そういった点では地区的な同様な課題ではないかと思われた。今後について市間で情報交換しながら進めることも必要ではないかを感じる。また、本市の体制構築とアンケート実施の内容が重要と思われた。



### 3. 島田市

#### 【内容】

島田市は静岡県中部の内陸の都市で、人口約10万人。島田市では、公共施設マネジメントの推進についてと廃校を利用した都市住民との交流事業について視察しました。

島田市では、こちらからあらかじめ質問した、内容について答える形で説明を受けました。

ここでも、本市と同じ様な進捗状況でありましたが、公共施設の40%近くが教育関連で、今後、小中学校の統廃合が大きな課題であるとのこと。

また、「市民の合意形成は今後の課題であり、市民の利便性を損なわない計画にしたい」とし、現状取組みとして、市内60余りある自治会単位に市長自ら訪問して公共施設の在り方を含めた市政対話を実施されているとお聞きしました。

つぎに、島田市へ編入合併した旧川根町にある山間地の小学校跡地の活用として『山村都市交流センターささま』現地視察を行いました。

この施設は合併直前に廃校となった施設を、約1億円かけて改修し宿泊をとまなう施設として開設され、平成21年度より運営され、平成27年度利用は宿泊3,141人、利用者17,229人となっており、地域の住民、主に高齢者を上手に巻き込んだ（居場所作り）施設となっています。

#### ●まとめ

公共マネジメントについても、本市と同様な進捗であると感じた。

島田市と本市の違う点は学校や保育所の統合がほぼ終了していることだが、残された施設をどうするか？活用についてもどの様にするか？は結局同じ課題である。

また、廃校の活用事業について、この様な施設運営をするには施設長北島氏のような存在が大きい。地元の活性化を推進するには「人」づくりが大きな課題ではないかと改めて強く感じた。

いずれにしても、庁舎の建設、西部小学校などを含めた時の公共施設管理計画をしっかりと進めるべき。

